

● 筆者紹介

Journal of Information Processing Society of Japan, Vol. 14, No. 6

渡辺 坦† (正会員)

昭和 14 年生。昭和 37 年京都大学理学部数学科卒業。日本アイ・ビー・エム (株) を経て、昭和 42 年より (株) 日立製作所にて、プログラムの機種変換の自動化、モジュラー・プログラミング・システム、各種問題向き言語に対する共通コンパイラ等の研究・開発に従事、現在同社中央研究所に勤務している。著書に『プログラミング・テクニック』(共著、総合図書)がある。ACM 会員。

† 第 14 巻第 4 号に掲載 (論文)

萩原 宏 (正会員)

大正 15 年生。昭和 25 年京都大学工学部電気工学科卒業。NHK を経て、昭和 32 年京都大学工学部助教授、36 年同教授となり、同学部にて計算機システム、特にその性能評価、設計の自動化、マイクロプログラミング方式などの研究に従事、現在同学部情報工学科教室に勤務している。工学博士。著書に『電子計算機通論 1, 2, 3』ほか数冊がある。電子通信学会、電気学会、ACM 各会員。

溝口 哲也

昭和 14 年生。昭和 38 年東京工業大学電気工学科卒業。同年より東京芝浦電気 (株) にて、主として電子計算機本体の開発設計に従事、現在同社電算機ハードウェア開発部に勤務している。電子通信学会会員。

相磯 秀夫 (正会員)

昭和 7 年生。昭和 32 年慶応義塾大学大学院修士課程修了。電気試験所 (現、電子技術総合研究所) にて ETL Mark IV の開発と工業化に従事、通商産業大臣賞を受賞、昭和 46 年慶応義塾大学工学部教授となり、同学部にて計算機アーキテクチャならびに計算機システム一般の研究に従事、現在同学部電気工学科に勤務している。工学博士。著訳書数冊がある。電子通信学会、電気学会、IEEE、ACM 各会員。

滝沢 克彦 (正会員)

昭和 13 年生。昭和 38 年東京大学工学部応用物理学科卒業。同年より (株) 日立製作所にて、磁性体記憶装置、固定記憶装置、半導体記憶装置の設計に従事、現在同社神奈川工場に勤務している。電子通信学会会員。

倉地 正 (正会員)

昭和 15 年生。昭和 38 年東京大学工学部電子工学科

卒業、40 年同電気工学修士課程修了。沖電気工業 (株) にて電子交換機の開発に従事したのち、昭和 43 年より東京芝浦電気 (株) にて、電子計算機デザインオートメーションシステムの開発に従事、現在同社青梅工場に勤務している。電子通信学会、IEEE 各会員。

長谷川昌昭

昭和 14 年生。昭和 37 年東京工業大学工学部電気工学科卒業。(株) 明電舎、東京工業大学工学部制御工学科助手を経て、昭和 41 年日本アイ・ビー・エム (株) に入社、英国 IBM 研究所にて S/370-135 の開発設計に従事、以降同機種の技術指導に当り、現在同社藤沢工場に勤務している。

稲葉 延武 (正会員)

昭和 17 年生。昭和 40 年東北大学工学部通信工学科卒業。昭和 41 年日本アイ・ビー・エム (株) に入社、ドイツおよびアメリカ IBM にて S/360-20, S/370-155-CHANNEL の設計開発に従事、以降 370-155, 158 の国産化のための技術指導に当り、現在同社藤沢工場に勤務している。

藤野 喜一 (正会員)

昭和 6 年生。昭和 30 年早稲田大学工学部数学科卒業、32 年同修士課程修了。同学電子計算室にてプログラミング言語とコンパイラの研究に従事したのち昭和 43 年より日本電気 (株) にて、ソフトウェア作成方式、マイクロプログラム利用技術の研究に従事、現在同社中央研究所コンピュータシステム研究部に勤務している。著書に『計算機システム基礎論』(共著、共立出版)、『ネットワーク入門』(共著、日本経営出版会)がある。

曾我 正和

昭和 11 年生。昭和 33 年京都大学電子工学科卒業、35 年同修士課程修了。同年より三菱電機 (株) にて、主に制御用計算機の開発に従事、45 年のマイクロプログラム計算機 MELCOM 350-30F 開発を経て、現在同社鎌倉製作所計算機工場計算機製造部に勤務している。電子通信学会会員。

山本 巖 (正会員)

昭和 9 年生。昭和 32 年京都大学工学部電気工学科卒業。同年より日本電気 (株) にて、データ伝送用変復調装置、端末装置、通信制御装置の開発に従事、現在同社府中工場に勤務している。電子通信学会会員。

日比野吉弘 (正会員)

昭和 18 年生. 昭和 40 年名古屋大学工学部電子工学科卒業. 同年より日本電気 (株) にて, 端末装置, 通信制御装置の開発に従事, 現在同社府中工場に勤務している. 電子通信学会会員.

飯塚 肇 (正会員)

昭和 14 年生. 昭和 37 年東京大学工学部応用物理学科卒業, 39 年同修士課程修了, 三菱電機 (株) を経て, 昭和 41 年より電気試験所 (現, 電子技術総合研究所) にて, TSS, 計算機システム解析, 計算機方式の研究に従事, 現在同所電子計算機部に勤務している. この間, 昭和 44 年より 1 年間, カリフォルニア大学バークレイ分校に研究員として滞在した. 著書に『計算機システム技術』(共著, オーム社), 『電子計算機/システム技術と機構』(共訳, 新樹社) などがある. 電子通信学会, IEEE, ACM 各会員.

馬目 洋一

昭和 17 年生. 昭和 40 年明治大学工学部電気工学科卒業, 45 年同博士課程修了. 同年より横河ヒューレット・パッカード (株) にて, YOHPAC-4100A の開発, データ通信システム, ファームウェアの開発などに従事, 現在同社システム課に勤務している. 電気学会会員.

竹内 廣文 (正会員)

昭和 14 年生. 昭和 38 年東京工業大学理工学部電気工学科卒業. 沖電気工業 (株) を経て, 昭和 40 年日本アイ・ビー・エム (株) に入社, ドイツおよびアメリカ IBM にて, S/360-20 を基にした特殊計算機および S/3 の設計開発に従事, 以降 S/3, S/370-155, 135, 158 の国産化のための技術指導, LSI 技術を使用した製品の工場導入のためのアドバイスに当り, 現在同社藤沢工場に勤務している.

IFIP の ペ ー ジ

○TC2 WG 2.1 (第 2 技術委員会の Algol に関する作業グループ) 第 19 回会合

1973 年 9 月 3 日～7 日, Santa Cruz, California.

(メンバーのみの会合であるが若干のオブザーバーも参加をゆるされる. Vol. 13, No. 12 の IFIP のページ参照. なおこの会合にひきつづき Algol 68 Implementer's Symposium が Los Angeles で開かれる.)

○TC2 WG 2.3 (第 2 技術委員会の Programming Methodology に関する作業グループ) 第 7 回会合

1973 年 10 月 21 日～26 日, Blanchland (Newcastle の近く)

(メンバーのみの会合であるが若干のオブザーバーも参加をゆるされる. Vol 13, No. 12 の IFIP のページ参照. 第 8 回会合は 1974 年 4 月 29 日～5 月 3 日, Zürich の近くで開かれる予定.)

○TC2 Working Conference on Data Base Management System

1974 年 4 月 1 日～5 日, Corsica

(詳細についてはオーガナイザーの一人

Mr. Klaas L. Koffeman

Weverstraat 88

Nuenen, NETHERLANDS

に問い合わせられたい.)

○TC2 Working Conference on Command Languages

1974 年 7 月 29 日～8 月 2 日, Lund, Sweden

(詳細についてはオーガナイザーの一人

Dr. Jan O. Nordling

Swedish Cellulose Co.

851 88 Sundsvall

SWEDEN

に問い合わせられたい.)

○TC2 WG 2.2 は本年秋に会合がある予定だが詳細未定.

今回は 4 月に Munich に開かれた TC2 委員会で確定した計画を紹介した. 他の TC についても追って掲載する.

(和田英一記)

本 会 記 事

○第 11 回通常総会

昭和 48 年 5 月 17 日 (木) 午後 1 時 30 分から約 1 時間にわたり、機械振興会館研修室において、第 11 回通常総会を開催した。出席者 1,456 名 (うち委任状 1,369 名)。

定款にもとづき、清野会長を議長として、下記の議案につき審議し、異議なく承認された。

- 第 1 号議案 昭和 47 年度事業報告承認について
- 第 2 号議案 昭和 47 年度収支決算および貸借対照表承認について
- 第 3 号議案 昭和 48 年度事業計画承認について
- 第 4 号議案 昭和 48 年度予算承認について
- 第 5 号議案 昭和 48 年度役員改選承認について

上記の第 4 号議案の承認につづいて、昭和 47 年度の論文賞が、益田隆司君 (日立) ほか 6 名、3 件に授与された。また、第 5 号議案の承認につづいて、清野会長から辞任につき、また尾見新会長から就任につきあいさつがあった。

なお、本総会終了後、前副会長、現東北支部長大泉充郎君が、「コンピュータ・ネットワークの諸問題」につき約 1 時間 30 分にわたり特別講演を行なった。聴講者約 100 名。

第 11 回通常総会において承認された内容の詳細は、つぎのとおりである。

1. 昭和 47 年度事業報告

1. 会 員

昭和 48 年 3 月 31 日現在の会員数は、つぎのとおりである。

- 正 会 員 6,610 名
- 学生会員 179 名
- 賛助会員 264.5 口 (125 社)

2. 会議の開催

2.1 第 10 回通常総会

昭和 47 年 5 月 12 日 (金) 午後 1 時 30 分から機械振興会館において、第 10 回通常総会を開催した。出席者 1,308 名 (うち、委任状 1,258 名)。

定款第 30 条にもとづき、清野会長を議長として、下記の議案につき審議し、異議なく承認された。

- 第 1 号議案 昭和 46 年度事業報告、ならびに収支決算報告
- 第 2 号議案 昭和 47 年度事業計画 (案) ならびに予算 (案)
- 第 3 号議案 定款改訂の承認について
- 第 4 号議案 昭和 46 年度論文賞の表彰

昭和 46 年度論文賞として、下記 2 論文の表彰を行なった。

○「コンピュータ・システム性能評価シミュレータ PACSS」三上 徹、久保秀士、高橋 勲、有福義範、北浦 隆

○「EDPS 化日程計算の一方法」栗野敏雄

第 5 号議案 昭和 47 年度新役員選出について

なお、47 年度の役員はつぎのとおりである。(○印は 47 年度新役員)

- 会 長 清野 武
- 副 会 長 高田昇平、○穂坂 衛
- 常務理事 池野信一、猪瀬 博、竹下 亨、美間敬之
- 理 事 ○大野 豊、○落合 進、坂井利之、○杉浦淳一郎、○中沢喜三郎、○水野幸男、○和田英一
- 監 事 ○河野忠義

なお、同総会終了後、高橋前会長が、「電子計算機随想——メーカーへの要望」と題し、特別講演を行なった。聴講者約 50 名。

2.2 理 事 会

昭和 47 年 4 月開催の第 143 回理事会以降、48 年 3 月まで 11 回開催した。

3. 学会誌の発行

3.1 編集委員会

昭和 47 年 4 月開催の第 137 回編集委員会以降、毎月 1 回計 11 回開催した。同年度内の委員は、つぎのとおりである。

- 編集担当理事 池野信一 (常務理事)、和田英一
- 委 員 飯田善久、石黒栄一、石田晴久、伊

藤 朗, 宇都宮公訓, 遠藤 誠, 釜江尚彦, 亀田寿夫, 木村 泉, 樽松明, 今野衛司, 近谷英昭, 渋谷多喜夫, 末包良太, 鈴木誠道, 首藤 勝, 高橋義造, 高山龍雄, 中西正和, 服部幸英, 花田収悦, 林 達也, 淵一博, 穂鷹良介, 真子ユリ子, 三浦大亮, 三上 徹, 森 敬, 山田邦雄, 米田英一

なお, 文献・ニュース小委員会(主査 末包良太ほか21名)を昭和47年4月から47年度内に6回開催した。

3.2 学会誌の発行

昭和47年4月から48年3月まで「第13巻4号~12号, 第14巻1号~3号」計12号を発行した。とくに第13巻6号を「企業における情報処理」, 同9号を「RAS」, 同11号を「システム性能評価」の特集号として, それぞれ発行した。

3.3 英文誌の発行

昭和48年3月に「Information Processing in Japan」Vol. 12 (1972)を1,000部発行し, 海外の主要大学・研究所に配布した。

4. 大会, 講演会

昭和47年12月5日(火), 6日(水)の両日, 日本都市センターで, 第13回大会を開催した。特別講演, 「システム開発をめぐる諸問題」尾関雅則君(国鉄)ほか, 招待講演3件, パネル討論1件, 一般講演166件, 参加者延約3,000名であった。

5. 研究活動

5.1 研究委員会

○教育調査研究委員会(主査 山内二郎ほか20名): 毎月第3月曜日を定日として計11回開催した。

○計数言語学研究委員会(主査 和田 弘ほか31名): 第3土曜日午後計3回開催した。

○LDG/AWG 研究委員会(主査 米田信夫ほか12名): 年度内に10回開催し, IFIP/TC 2のALGOL WGの活動に協力し, わが国の意見を提案した。

○歴史研究会(主査 末包良太ほか16名): 2回開催し, 本年度をもって終了した。

○計算機設計自動化研究委員会(主査 加納 弘ほか27名): 毎月1回(計11回)の研究会ならびに昭和47年8月には箱根で3日間にわたりシンポジウ

ムを開催した。

○データ・ベース研究会(主査 西野博二ほか19名): 昭和48年2月に発足し, 6月から研究発表を中心に本格的活動を予定している。

○マン・マシン・システム研究会(主査 大須賀節雄ほか13名): 昭和48年3月に発足し, 48年度に研究発表を中心に活動することになった。

5.2 情報処理月例会, シンポジウム

○情報処理月例会(運営委員会主査 杉浦淳一郎ほか8名): 「アメリカにおける情報処理研究」山田尚勇君(東大)ほか計7件の講演を, 毎月第3火曜日午後3時から開催した。

○第14回プログラミング・シンポジウム(委員長 山内二郎): 昭和48年1月10~12日の3日間, 箱根で開催した。発表件数22件, 参加者約200名であった。

○「システム評価」ならびに「ミニコンのソフトウェアとネットワーク」に関するシンポジウムをそれぞれ昭和47年7月に開催した。

6. 規格調査活動

6.1 規格委員会(委員長 和田 弘, 幹事 猪瀬博, 海宝 顕ほか30名)

前年度に引き続き, ISO/TC 97で行なっている国際規格原案作成につき審議し, 協力した。

なお, 同規格委員会の下部機構として, ISO/TC 97の組織に対応して規格専門委員会 SC 1~15をもうけ, 活発に活動した。

6.2 日本工業規格(JIS)原案作成委員会

(財)日本規格協会から下記2件の原案作成委託をうけ, 昭和48年3月に完了した。

(1)「情報処理用語」JIS 原案作成委員会(委員長 西野博二ほか31名)

(2)「光学式文字読取りのための情報交換用符号」JIS 原案作成委員会(委員長 元岡 達ほか16名)

6.3 「漢字コード」委員会(主査 和田 弘ほか10名)

前年度に引きつづき, 4回開催し, 「標準コード用漢字表(案)」のコード化について検討した。

7. 出版活動

7.1 出版委員会(委員長 美間敬之ほか9名)

7.2 電子計算機ユーザー調査年報

1973年度版を昭和48年3月に編纂発行した。

7.3 情報処理ハンドブック

昭和 47 年 5 月 30 日に発行された。

8. 国際活動

8.1 第 1 回日米コンピュータ会議

昭和 47 年 10 月 3～5 日の 3 日間、東京の日本都市センターで第 1 回日米コンピュータ会議を AFIPS と共催した。論文 105 編(日本 58, 米 45, スイス 1, 日米共同 1) の発表があり、1,168 名(日本 932, 米 236) が参加した。また 10 月 3～7 日に、東京流通センターで展示会を開催した。総展示面積 1,914 m², 出展 39 社(日本 1,234 m², 19 社, 米 680 m², 20 社), 参観者 33,690 名で、盛況であった。

さらに、同会議期間中、都内の主要な「情報処理センター」、または利用施設の見学会を行なった。

8.2 IFIP (情報処理国際連合) 関係

(1) IFIP 国内委員会(委員長 清野 武ほか 10 名)

IFIP の国際活動に対応するため、IFIP 国内委員会をもうけ、年度内に 4 回開催し、各 IFIP/TC との連絡を密に保ち、学会誌に「IFIP のページ」を新設し、会員に内容を紹介することとした。

(2) IFIP 理事会

後藤英一君 (IFIP への日本代表, IFIP 副会長) が、昭和 47 年 4 月 (ストックホルム) ならびに同年 10 月 (ソフィア市) 開催の IFIP 理事会ならびに総会に出席した。

8.3 ISO/TC 97 国際会議

TC 97 の全体会議が、ベニスで昭和 47 年 6 月 20～22 日に開かれ、和田委員長ほか 3 名が出席したのをはじめ、年度内に、SC, PG の国際会議に計 44 名が出席した。

9. 論文賞の選定

論文賞選定委員会 (委員長 穂坂副会長ほか 12 名) において、昭和 47 年度論文賞の選定を行ない、下記 3 件の論文を、48 年 5 月開催の第 11 回通常総会で表彰することとなった。

○「ペーシング・マシンにおけるスワッピング・アルゴリズムの比較とプログラムの動作解析」益田隆司, 高橋延匡, 吉沢康文 (日立)

○「コンフリクト・フラグをもったハッシュ記憶法」古川康一 (電総研)

○「連続・離散系両用シミュレーション・プログラムの開発」赤塚武昭, 吉田信之, 加藤明憲 (東レ)

10. 支部

10.1 関西支部 (支部長 米花 稔)

(1) 支部総会 (昭和 47 年 5 月 23 日)

(2) 評議員会 (同年 5 月 9 日)

(3) 幹事会 (同年 8 月 31 日, 12 月 21 日)

(4) 支部大会 (同年 7 月 7 日, 於日本生命中之島研究所, 参加者 100 名)

(5) 講演会, 見学会 (1 回)

(6) 研究会

システム・ソルビング研究会 (17 回), 数値解析研究会 (1 回), プログラミング言語研究会 (2 回)

10.2 東北支部 (支部長 大泉充郎)

(1) 支部総会 (昭和 47 年 6 月 20 日)

(2) 幹事会 (毎月 1 回)

(3) 研究会, 講演会, 見学会 (毎月 1 回)

(4) 電気関係東北支部連合大会 (昭和 47 年 8 月)

2. 昭和 47 年度決算報告

1. 収支決算

昭和 47 年 4 月 1 日より昭和 48 年 3 月 31 日まで (単位: 円)

支 出			収 入		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
一般会計			一般会計		
会員連絡費	1,575,000	1,353,839	入 会 金	375,000	383,300
会 議 費	1,170,000	971,594	会 費	24,810,000	24,992,626
会誌発行費	20,680,000	17,962,370	賛 助 会 費	5,200,000	6,070,000
研究委員会費	2,750,000	1,373,312	事 業 収 入	9,580,000	8,162,850
事 業 費	3,000,000	1,355,555	委託補助金	100,000	150,000
海外活動費	800,000	405,949	利息収入	300,000	440,330
事務局費	9,600,000	8,635,706	雑 収 入	500,000	180,704
支 部 費	550,000	550,000	前期繰越金	963,678	963,678
賛 助 会 費	140,000	56,000	UJCC 戻入金	—	1,600,000
支 払 手 数 料	350,000	364,441	46年度未払金	—	—
予 備 費	1,213,678	303,602	精算剰余金	—	245,341
小 計	41,828,678	33,332,368	小 計	41,828,678	43,188,829
剰 余 金	—	9,856,461			
特別会計			特別会計		
規格調査	3,720,000	2,796,777	規格調査	3,600,000	3,000,000
JIS 原案	450,000	288,400	ISO, JIS 補助	700,000	475,000
作成委			前期繰越金	1,907,672	1,907,672
規格予備費	2,037,672	—	雑 収 入	—	16,945
			46年度未払金	—	—
			精算剰余金	—	58,898
小 計	6,207,672	3,085,177	小 計	6,207,672	5,458,515
規格剰余金	—	2,373,338			
総勘定支出	44,785,000	36,417,545	総勘定収入	45,165,000	45,775,994
総勘定予備費	3,251,350	—	総勘定繰越金	2,871,350	2,871,350
合 計	48,036,350	36,417,545	合 計	48,036,350	48,647,344
当期収支差額	—	12,229,799			
総 計	—	48,647,344	総 計	—	48,647,344

2. 貸借対照表 (昭和48年3月現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	(15,512,765)	流動負債	(2,437,660)
現金	80,075	未払金	2,421,452
銀行預金	4,757,371	前受金	0
定期預金	5,650,575	仮受金	16,288
諸預金	1,304,635	46年度分未払金	0
未収入金	3,714,235	固定負債	(4,886,429)
仮払金	5,872	退職給与引当金	856,429
46年度分未収金	0	規格ISO引当金	30,000
固定資産	(5,833,908)	UJCC立替引当金	0
什器備品	337,179	国際会議引当金	2,000,000
電話加入権	10,300	事務所移転引当金	2,000,000
退職金引当金	856,429	資 本	14,022,584
事務所移転引当金	2,000,000	基本資本	500,000
国際会議引当金	2,000,000	前期繰越金※	2,871,350
UJCC立替金	0	当期繰越金※	10,651,234
規格調査ISO引当金	30,000		
敷 金	600,000		
合 計	21,346,673	合 計	21,346,673

※ 2,871,350円 + 10,651,234円 = 13,522,584円…………… (1)
(前期繰越金) (当期繰越金) (繰越金合計)

3,714,237円 - 2,421,452円 = 1,292,785円…………… (2)
(未収入金) (未払金) (現金収支のない資産増加額)

(1) 13,522,584円 - (2) 1,292,785円 = 12,229,799円……………
収支決算剰余金

(注) 繰越金はすべて一般会計、特別会計の繰越金を合計したものとす。

未収入金内訳		未払金内訳	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
別刷代	227,625	学会誌関係	733,279
広告料	2,067,900	英文誌関係	832,302
学会誌売却	593,712	〃 (編集)	130,000
規格分担金	600,000	〃 (パンチ)	50,000
JIS補助金	225,000	〃 (発送)	60,000
		原稿料	346,400
		査読料	85,500
合 計	3,714,237	事務用品	183,971
		合 計	2,421,452

3. 繰越金処理 (案)

昭和48年3月31日

(円)

1. 当期末繰越金	13,522,584
前期繰越金	2,871,350
当期繰越金	10,651,234
48年度分の会費前受相当額	4,872,000
当期純繰越金	5,779,234
2. 繰越金処理額	5,000,000
一般会計	4,000,000
事務所移転準備金	3,000,000
事業拡張準備金	1,000,000
特別会計 ISO 積立金	1,000,000
3. 次期繰越金	8,522,584

一般会計	7,149,246
48年度分の会費前受相当額	4,872,000
次期純繰越金	2,277,246
特別会計	1,373,338

4. (特別会計) 日米コンピュータ会議
収支決算 (見込)

(単位: 円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
費 目	決算見込額	費 目	決算見込額
会議準備費	15,204,343	参加費	20,696,304
事務局賃料	400,000	利息収入	445,643
人件費	1,345,145	為替差益	274,550
代行費	1,500,000	雑収入	892
交通費	247,215	プロシーディングス	3,966,424
会合費	1,362,847	売上	
印刷費	2,748,433	展示出品料	28,710,900
出版費	3,975,952		
消耗品費	561,283		
通信費	818,760		
広報費	4,673		
海外連絡費	2,022,285		
雑費	7,750		
その他	210,000		
会議運営費	9,734,463		
会場費	2,622,500		
同時通訳	2,995,800		
輸送費	801,043		
接待費	652,815		
役員宿泊費	268,795		
会議要員費	1,287,525		
雑費	118,865		
婦人プロ	380,550		
記録費	300,000		
記念品費	306,570		
レセプション、 ランチョン等	1,494,150		
展示事務委託費	23,283,000		
剰余金見込額※	4,378,757		
総 計	54,094,713	総 計	54,094,713

※ 剰余金は日米両学会で折半するものとする。

3. 昭和48年度事業計画

1. 会 員

正 会 員 7,300名(予定)ただし47年度末6,610名
 学生会員 200名(予定)〃 47年度末 179名
 賛助会員 270口(予定)〃 47年度末 264.5口

2. 会 議

総 会 年1回(5月)開催
 理 事 会 年10回以上開催

3. 事業活動

3.1 学会誌

「情報処理」(月刊)を逐次増頁し、講座、解説などを拡充するとともに IFIP その他国際的研究の動向の

紹介につとめる。また、特集号2回、小特集号1回を計画する。

英文誌「Information Processing in Japan」(1973)の刊行。

3.2 大会、講演会

第14回大会をより充実をはかって開催する。また、一般講演会を研究委員会、研究会の協力のもとに開催する。

3.3 研究会、講習会、研究委員会

データ・ベース、マン・マシン・システム、計数言語学、計算機設計自動化、医療情報処理の各研究会を新設し、それぞれ研究発表会によって、研究成果を会員に広く紹介する。さらに、研究会の主要テーマについて初心者向けの講習会を計画する。またコンピュータ・ネットワーク研究委員会、イメージ・プロセッシング研究委員会およびコンピュータ・エイディッド・プログラミング研究委員会を新設する。

3.4 規格調査研究活動

規格委員会に、規格専門委員会(SC)、JIS 原案作成委員会、漢字コード委員会などをもうけ、規格に関する調査研究を行なう。

3.5 諸事業

(1)「情報処理」掲載の優秀論文の表彰

(2)「1974年版電子計算機ユーザー調査年報」の編集

(3) 会員をはじめ、広く関連業学界に貢献する図書ならびに資料の刊行

4. 国際活動

4.1 IFIP

IFIP の国際活動に協力するため、IFIP 国内委員会に IFIP/TC に対応して、適宜 TC をもうける。

4.2 第2回日米コンピュータ会議

1975年に日本開催、を目的に準備にとりかかる。

4.3 その他

ISO/TC 97 の各 SC 国際会議への出席。

海外知名学者の招待。

IFIP 総会、理事会への出席。

5. 支部活動

関西支部(総会、大会、研究会、講習会、見学会など)。

東北支部(総会、大会、研究会、講習会、見学会など)。

4. 昭和48年度予算

昭和48年4月1日より昭和49年3月31日まで

(単位: 円)

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
一般会計		一般会計	
会員連絡費	2,130,000	入会金	375,000
会議費	1,570,000	会費	34,380,000
誌発行費	27,493,000	賛助会費	8,100,000
調査研究費	3,350,000	事業収入	14,580,000
事業費	6,744,000	調査研究	575,000
海外活動費	1,270,000	委託補助	150,000
事務局費	12,317,000	利息収入	400,000
支部費	700,000	雑収入	300,000
賛助会員費	263,000		
支払手数料	600,000		
予備費	4,700,246	前期繰越金	2,277,246
小計	61,137,246	小計	61,137,246
特別会計		特別会計	
規格調査	3,450,000	規格調査	3,600,000
J I S (用語)	250,000	規格協会ISO補助	250,000
J I S (コード)	150,000	J I S (用語)	250,000
J I S (データ伝送)	150,000	J I S (コード)	150,000
国際会議準備金	1,000,000	J I S (データ伝送)	150,000
予備費	773,338	前期繰越金	1,373,338
小計	5,773,338	小計	5,373,338
総勘定支出	61,437,000	総勘定収入	63,260,000
総勘定予備費	5,473,584	総勘定前期繰越金	3,650,584
合計	66,910,584	合計	66,910,584

5. 昭和48年度役員改選について

1. 定款第16条にもとづき、去る4月に行なわれた昭和48年度役員選挙の結果、下記の7名が選出された。

会長候補 尾見半左右(富士通)

副会長候補 川田 大介(日電)

理事候補

(研究・教育) 高島堅助(通研), 元岡 達(東大)

長尾 真(京大)

(製造・販売) 藤中 恵(日立)

(利用) 辻岡 健(日電)

2. 昭和48年度留任役員

副会長 穂坂 衛

理事 大野 豊, 落合 進, 杉浦淳一郎, 中

沢喜三郎, 水野幸男, 和田英一

監事 河野忠義

3. 退任役員

会長 清野 武

副会長 高田昇平

常務理事 池野信一, 猪瀬 博, 竹下 亨, 美間

敬之

理事 坂井利之